

あーすまつり ～UP SIDE DOWN(ひっくりかえせ)～

社会福祉法人 ふらっぶ

〒574-0027 大阪府大東市三住町 2-1

助成事業の概要

このイベントは日頃人前に立つような経験の少ない精神障害当事者たちにスポットライトが当たるような機会を作りたいという思いから始まったイベントです。『UP SIDE DOWN』とは「ひっくり返せ」という意味があり、こころの病について世間のイメージをひっくり返したいという思いで開催しました。当事者家族など当事者に関わる方々が、バンドやフラダンス、朗読劇等に堂々と舞台上で発表する姿を見て、当事者の新たな一面を発見する機会になっています。参加する当事者が実行委員会を立ち上げ、自ら集まり内容を決めます。

日 時：2025 年 2 月 15 日（土）14:45 ～ 15:45 大東市立総合文化センター（サーティホール）

内容：大東市民や他の障害福祉施設、大東市内だけでなく、他市の関係機関や当事者家族、教育機関等、対象を限らずに開催。当事者による音楽バンドの演奏や、フラダンスの発表、絵本朗読劇、作品の展示や販売を実施。

出演者を含め約 150 名の方が参加しました。

事業の成果

今年度は、出演者や裏方を含め 38 名が参加しました。司会も当事者が務め、途中で文字を見失わないよう台本をなぞりながら取り組みました。今年度は最初にイベントの趣旨を当事者と職員で紹介、会場を温める役割を果たしました。次に、

出演者について紹介します。音楽では 4 組のグループが出演し、オリジナルソングを心を込めて演奏しました。普段は言葉数が少ない当事者も、歌詞を通じて豊かな気持ちを表現し、アンケートでは「感動した」という声が寄せられました。

また、当事者の提案で、歌に合わせて手話を取り入れました。お客様と一緒に手話を行い、会場が一体となりました。フラダンスでは、難しいステップを何度も練習し、笑顔で踊れるようになりました。「美しい」「ハワイの気分になった」といった感想が寄せられました。ポエムでは、自身の障害特性による困難を詩に表現しました。絵本朗読劇では、『怪獣たちはこうやってピンチをのりこえた』を披露しました。この絵本は、不安を「悪いこと」ではなく「自分を守るために上手に付き合うもの」として捉える内容です。今年度は、初めて市民の方も一緒に練習し、ともに発表しました。

展示コーナーでは、趣味活動で作った作品や地域の子どもの絵を紹介しました。販売コーナーでは、編み物のミニ巾着や刺し子の小物など、当事者が制作した商品が好評でした。イベントに向けて体調を崩す方もいましたが、本番には誰ひとり欠けることなく参加し、練習以上に堂々と発表できました。今回初めて参加した当事者の一人は、「家族は興味がないと思うので話していない」と語っていましたが、当日、観客席にはチラシを見た家族が本人に内緒で訪れ、出演を喜んでおられました。家族間のコミュニケーション不足が気持ちのすれ違いを生んでいたことを、互いに認識し、イベント後は会話が少し増えたそうです。

また、知的障害施設の方々が大勢来場し、「良いイベントだった」と評価してくださり、次回の参加を希望する声もいただきました。パンフレット制作を生活介護事業所に依頼し、当事者があーすまつりをイメージしたイラストがたくさん掲載されたパンフレットが完成しました。当日参加しない方々からも多数のイラストが寄せられました。

■ 成果の広報・公表

広報では、市の広報誌への掲載や、施設周辺から広範囲にイベント案内チラシの配布を行いました。

また、大東市内の公共施設、福祉団体、医療機関にチラシの掲示を依頼し、法人ホームページや個人のソーシャルメディアでも情報を発信しました。

さらに、イベントの写真や動画を編集し、DVD を作成。観覧できなかった方にも届けられるよう、医療機関や教育機関、関係福祉施設などへの販売を予定しており、売り上げはプログラム活動に活用します。また、大東市精神保健福祉を考える市民の会「ぶんぶん」の機関誌『ぶんぶんだより』にイベント報告を掲載し、精神障害者への理解促進に努めます。

■ 今後の展開

あーす祭は次回で 20 回目を迎えます。当初は職員からの声掛けで参加者が集まっていましたが、次第に当事者の主体的な取り組みが増し、年々盛り上がりを見せています。演者や観客の数も増え、普段の生活では見られない当事者の一面を垣間見ることができる、貴重な自己表現の場となっています。今後はさらなる発展を目指し、ソーシャルメディアの活用や市民団体・関係機関との連携

を強化し、より多くの人に参画してもらいたいと考えています。

また、地域の方々とのコミュニケーションを積極的に取り入れることで認知度向上を図ります。

さらに、当事者主体で日時やプログラムを検討し、家族や関係者も参加しやすい環境を整えます。当事者が自己を表現し、社会とつながり、驚きや感動、喜びを提供する「UP SIDE DOWN～ひっくり返す」イベントへと発展させていきます。